

ドイツ音楽はいかに**世界の音楽**となったか
ベートーヴェンからクラフトワークまで

明石 政紀 (あかし・まさのり)

著述家。札幌生まれ。

1980年代前半はパンク・オルタナティブ・ミュージックの批評、80年代後半から90年代前半までは音盤制作者（Wave-eva/evvaレーベル）。90年代後半にベルリンに転居。

著書に『ベルリン音楽異聞』（みすず書房2010）、『キューブリック映画の音楽的世界』（アルファベータ2007）、『フリッツ・ラング または伯林＝聖林』（アルファベータ2004）、『ポップ・ミュージックとしてのベートーヴェン』（勁草書房2002）、『ドイツのロック音楽 またはカン、ファウスト、クラフトワーク』（水声社1997/2003）、『第三帝国と音楽』（水声社1995）ほか。音楽関係の翻訳書には、ヴァイスヴァイラー『オットー・クレンペラー あるユダヤ系ドイツ人の音楽家人生』（みすず書房2011）、マイケル・H・ケイター『第三帝国と音楽家たち 歪められた音楽』（アルファベータ2003）、ヴォルフガング・フリーア『クラフトワーク ロボット時代』（シンコーミュージック2001）、パスカル・ビュッシー『クラフトワーク 〈マン・マシーン〉とミュージック』（水声社1994）などがある。

来場者に**EUグッズ**
プレゼント！！

2019年 **5月22日** (水)

10:55-12:35

上智大学四ツ谷キャンパス
中央図書館9階 **L921**

入場無料/事前申し込み不要

使用言語: **日本語**



【主催】上智大学ヨーロッパ研究所 EU情報センター
〒102-8554 東京都千代田区紀尾井町7-1 上智大学中央図書館7階 721 B
Tel: 03-3238-3902 E-mail: i-europe@sophia.ac.jp
【共催】上智大学文学部ドイツ文学科